

## 看護学科

科目名: 在宅看護学実習				担当教員 氏名: 荒木晴美、今川孝枝、高田亮子、炭谷英信、北山由起子、稲垣尚恵、亀田景子、柴田由加他	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	
2	2~3年次 通年	総合科目	実習	必修	
実務経験を用いてどのよう病院、訪問看護ステーション(訪問看護、居宅介護支援、福祉用具貸与)などでの実務経験を活かし、療養うな授業を行っているか: 者および家族に応じた看護過程の展開、社会資源の活用方法を学生の体験を踏まえながら教授する。					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
在宅で療養する人及びその家族の特徴を理解し、療養者及び家族に応じた看護過程が展開できる。さらに、社会資源の活用について具体的に学ぶ。				在宅療養、家族、社会資源	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		在宅で療養する人及びその家族の特徴を理解することができる。			
B 専門的技術		在宅療養を推進・継続するための社会資源の活用方法を習得できる			
C 論理的思考力		療養者及び家族に応じた看護過程を展開することができる。			
F チームワーク・リーダーシップ		チームメンバーの一員として役割を理解し、チームに参画することができる。			
G 倫理観		援助にあたり、尊厳や権利を尊重する看護の方法を習得する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート:	60 %	発表:	20 %
				実技試験:	%
				その他:	20 %
特記事項: 本科目はアクティブ・ラーニングの一環として4形態の施設で実習を行います。実習場でのカンファレンス、報告会、学内での学びの報告やディスカッションを通して学びの共有化を図り、療養者・家族に応じた看護展開ができることを狙いとしています。					
アクティブラーニング要素:					
課題解決型学習 (ディスカッション、ディベート) グループワーク (プレゼンテーション) (実習、フィールドワーク)					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 事前学習、実習中の学習態度、記録物・課題レポートなどを総合的に評価します。 * 提出物は期限を厳守してください。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実習記録、提出課題に対してコメント記載および個人面談でフィードバックを行います。					
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)	
				学習内容	学習に必要な時間(分)
実習期間・方法: 令和2年 5月 11日～ グループごとに実施					
実習施設: <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護ステーション</li> <li>・富山型ディサービス等</li> <li>・地域包括支援センター</li> <li>・訪問入浴サービス</li> <li>・訪問入浴サービス</li> </ul> * 詳細については実習要項に記載				【予習】事前課題に取り組む。関連する教科書やこれまでの講義・演習の復習。  【復習】実習で経験した事柄について関連する教科書等で復習。在宅看護領域の国家試験問題の学習。	
使用テキスト: 在宅看護学関連講義(概論、援助論Ⅰ・Ⅱ)、家族看護概論、健康と法律、社会福祉概論等の教科書・資料 (今まで使用のもの)				その他参考文献など: 国民衛生の動向等	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ①本実習の目的を理解し、積極的に実習に参加されることを期待します。 ②行動目標を明確にして実習に望んでください。 ③健康および生活管理を十分に行ってください。					